

## 要約

畑の全面消毒より簡易な、栽培うね内を消毒する方法で、全面消毒と同等のイモグサレセンチュウ被害低減効果が認められました。

## 研究成果の概要

## 1. 背景・目的

イモグサレセンチュウは、にんにくの生育期間中に土からにんにくに侵入し、収穫後、乾燥・調整中に急激に増殖して、にんにくの腐敗を引き起こす線虫です。この被害を低減させるため、これまで畑全面の土壌くん蒸消毒を行ってきましたが、低コストで省力化が期待される、より簡易な方法での消毒方法が求められていました。



写真1 にんにくのイモグサレセンチュウ被害

## 2. 内容

- うね内消毒法は、うねだけを消毒後、うね立てと同時に被覆資材で被覆し、一定期間経過後、ガス抜きをせずに、被覆資材に直接穴を開けてにんにくを植え付ける方法で、農薬とマルチ資材が削減できます。
- うね内処理で効果が認められた剤は、クロルピクリンくん蒸剤（99.5%、80.0%、70.0%製剤）、キルパー、ディ・トラベックス油剤です。
- 全面消毒と同等の効果が確認されました。

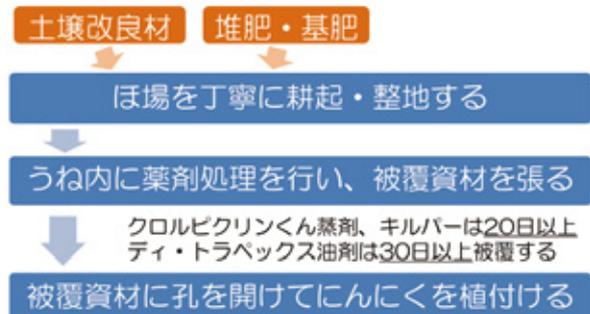


図 うね内消毒の方法



写真2 うね内消毒作業の様子(田子町)  
※「うね立て→土壌消毒→すぐにマルチ被覆」を一連で作業する。

## 3. 活用等

うね立て同時土壌消毒機やにんにく植付け機の改良により、農薬とマルチ資材を減らした、簡易で低コストな土壌のくん蒸消毒が可能になります。

## 関連情報

- 詳細については平成25年度指導参考資料を参照してください。  
<http://www.applenet.jp/~nouken/promote/sakumoku/yasai/h25y47.pdf>

野菜研究所 病虫害部

Tel. 0176-53-7085

E-mail nou\_yasai@aomori-itc.or.jp

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center  
地方独立行政法人 青森県産業技術センター

